
2026 年度

新専門医制度 内科領域プログラム

順天堂大学内科専門研修プログラム



順天堂大学 内科

研修施設群の各施設名

施設分類	施設名	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検症例数
基幹施設	順天堂大学医学部附属順天堂医院	1,051	335	9	164	97	27
連携施設	順天堂大学医学部附属静岡病院	603	183	8	18	14	2
	順天堂大学医学部附属浦安病院	785	254	8	50	12	14
	順天堂大学医学部附東京江東高齢者医療センター	404	150	8	7	7	6
	順天堂大学医学部附属練馬病院	490	151	9	52	10	8
	江東病院	286	134	8	14	14	2
	東部地域病院	314	112	3	18	4	0
	東京臨海病院	400	140	6	20	6	16
	越谷市病院	481	150	5	2	6	2
	がん研究会有明病院	700	235	14	30	16	10
	国立がん研究センター中央病院	578	280	9	46	29	28
	国立がん研究センター東病院	425	285	6	23	16	3
	国立国際医療研究センター病院	749	247	18	54	31	36
	国立病院機構相模原病院	458	226	8	21	17	18
	日本赤十字社医療センター	645	167	11	19	36	6
	JR 東京総合病院	448	120	7	15	16	12
	東京都立墨東病院	729	217	9	38	31	10
	榊原記念病院	307	232	1	18	13	1
	埼玉県済生会川口総合病院	424	143	8	20	15	15
	聖路加国際病院	520	160	12	55	44	30
	沖縄県立北部病院	327	99	5	3	3	3
	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	989	310	12	30	25	62
	亀田総合病院	917	521	13	40	24	24
	公立岩瀬病院	279	80	7	2	2	1
	飯塚病院	1,048	477	18	21	46	12
	島田総合病院	185	100	5	1	1	0
	水戸共同病院	369	160	8	17	16	3

特別連携 施設	順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院	地域医療として一般内科を研修
	新島村国民健康保険診療所	
	JA 静岡厚生連 中伊豆温泉病院	
	朝日生命成人病研究所付属医院	

各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

施設名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
順天堂大学医学部附属順天堂医院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
順天堂大学医学部附属静岡病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
順天堂大学医学部附属浦安病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
順天堂大学医学部附東京江東 高齢者医療センター	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	○	△	△
順天堂大学医学部附属練馬病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
江東病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	△	○	○
東部地域病院	×	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
東京臨海病院	△	○	○	×	○	△	○	×	○	△	△	△	×
越谷市病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○
がん研究会有明病院	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×
国立がん研究センター中央病院	△	○	△	×	△	×	○	○	×	×	×	△	×
国立がん研究センター東病院	○	○	○	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×
国立国際医療研究センター病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
国立病院機構相模原病院	△	△	△	×	△	△	○	△	△	○	△	△	△
日本赤十字社医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
JR 東京総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京都立墨東病院	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
榊原記念病院	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	×	△	○
埼玉県済生会川口総合病院	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
聖路加国際病院	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
沖縄県立北部病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○
地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
亀田総合病院	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
公立岩瀬病院	○	○	△	×	△	×	△	×	×	×	△	△	△

飯塚病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
島田総合病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	△	○	○
水戸共同病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
新島村国民健康保険診療所	地域医療として一般内科を研修												
JA 静岡厚生連 中伊豆温泉病院													
朝日生命成人病研究所附属医院													

1) 基幹施設

◆順天堂大学医学部附属順天堂医院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	• 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 • 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 • 当院就業規則として労務環境が保障されています。 • メンタルストレスに適切に対処する部署本郷・お茶の水キャンパス健康管理室)があります。 • ハラスメントの対応とし、「本郷・御茶ノ水キャンパス ハラスメント相談窓口」として人事課、健康管理室の 2 つの窓口を設置しています。 • 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 • 敷地内に院内保育所が用意されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	• 内科学会指導医は 218 名在籍しています。 • 施設として全領域の専門研修委員会が設置されているほか、内科は、内科統括責任者を中心とした内科専門研修プログラム管理委員会およびプログラム管理者（内科領域教授、総合内科専門医・各領域指導医より構成）を中心に専門医研修プログラムの各種小委員会が設置しています。さらに、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 • 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理委員会を設置します。 • 病院医療倫理委員会(11 回)・医療安全管理委員会（17 回）・感染対策講習会（2 回）医療にかかわる安全管理のための職員研修（20 回）を定期的開催(2024 年度実績)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 病院 CPC(年間実績 4 回) を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 各内科における地域参加型のカンファレンス・地域講演会のほか、順天堂医学会学術集会（2024 年度実績年 2 回）医師会医学会等を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催実績 10 回：受講者 59 名）を受講する機会を与えており、そのための時間的余裕を与えます。 • 日本専門医機構による施設実地調査については、当院のプログラム管理委員会、および臨床研修センターが対応します。 • 特別連携施設の専門研修では、電話やメールでの面談・Web 会議システムなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	• カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 • 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 • 専門研修に必要な剖検（2022 年 27 体、2023 年 28 体、2024 年 24 体の実績）を行っています。

認定基準 【整備基準 23 4) 学術活動の環境	- 臨床研究に必要な図書などを整備しています。 - 順天堂大学臨床研究審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2024 年度実績 12 回)しています。 - 治験審査委員会を設置し、定期的に開催(2024 年度間実績 11 回)しています。 - 医学系研究等倫理委員会を設置し、定期的に開催(2024 年度実績 11 回)しています。 - 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表をしています。 - 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	鈴木祐介 【内科専攻医へのメッセージ】 順天堂大学は、合計 6 つの附属病院を有し、それぞれの地域の協力病院と連携し、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。順天堂医院は高度医療、先進医療を提供する病院として、他の医療機関と相互連携を図り、診療を行う厚生労働省に認定された「特定機能病院」です。 当プログラムは、大学病院として、質の高い内科医を育成するばかりでなく、各人の希望に沿って、より専門性に特化した研修内容や高度先進医療等を経験できます。一方で各附属病院や当院と関連のある教育病院において、より地域の特性に沿った医療を行うことも可能です。 主担当医として、外来診療や入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。 多くの専門医指導医からの指導を受けるとともに大学病院の特質となる学生教育の一端を担うことで、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供する一員として、今後の医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目標にします。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 218 名、日本内科学会総合内科専門医 114 名、日本消化器病学会専門医 37 名、日本肝臓学会専門医 19 名、日本循環器学会専門医 40 名、日本内分泌学会専門医 10 名、日本糖尿病学会専門医 26 名、日本腎臓学会専門医 13 名、日本呼吸器学会専門医 31 名、日本血液学会専門医 13 名、日本神経学会専門医 35 名、日本アレルギー学会専門医 3 名、日本リウマチ学会専門医 25 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本老年医学会専門医 4 名、日本救急医学会専門医 3 名、消化器内視鏡学会専門医 36 名、がん薬物療法専門医 3 名
外来・入院患者数	内科外来患者 37,536 名（1 ヶ月平均）、 内科入院患者 899 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 の症例を幅広く経験することができます。そのほかに大学病院ならではの希少な症例等幅広い症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	一般診療・急性期医療だけでなく、超高齢者化社会に対応した地域に根ざした医療として、近郊の医療圏の病病・病診連携施設等で訪問診療や外来診療や離島医療なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会教育認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本老年医学会認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本輸血学会認定医制度指定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本アフェシス学会教育認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本認知症学会専門医教育施設 日本脳卒中学会認定教育施設 など

2) 連携施設

◆順天堂大学医学部附属静岡病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度研修指定病院です。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。 ・研修に必要な図書室と、図書室内と研修室はインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されており、また敷地内に院内保育所を保有しています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が、17 名在籍しています。 ・医療安全、感染対策講習会を定期的に開催しています。 ・内科症例検討会を毎月開催しています。 ・CPC を定期的に開催しています。(年間 7 回) ・院内では救急科による、ICLS(年 3 回開催)、JMECC(年 1 回開催)、ISLS(年 1 回開催)が開講され、受講できます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す 13 分野のうち、11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察しています。 ・専門研修に必要な剖検(2021 年度実績 2 体、2022 年度 10 体)
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・日本内科学会地方会に年回で 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	消化器内科科長 玄田 拓哉 【内科専攻医へのメッセージ】 静岡県東部の医療機関が少ない地域で、幅広い疾患について、専門的な治療を行える日本有数の病院です。特にドクターヘリは年間 1000 人以上(国内 2-3 位)の患者さんを収容し、高度な治療を行っています。 学閥や上下関係もなく、各科のコミュニケーションは良好で、年間 20 名以上の研修医とともに、日々高い技術を習得できます。 また、学会発表や論文の執筆も盛んで、実績を積み重ねる良い機会です。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会認定医(31 名)、日本内科学会総合内科専門医(14 名)、日本リウマチ学会専門医(4 名)、日本消化器学会専門医(9 名)、日本肝臓学会専門医(3 名)、日本消化器内視鏡学会専門医(8 名)、日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医(1 名)、日本呼吸器学会専門医(3 名)、日本血液学会専門医(5 名)、日本腎臓学会専門医(2 名)、日本透析医学会専門医(2 名)、日本糖尿病学会専門医(2 名)、日本循環器学会専門医(6 名)、日本心血管インターベンション学会認定医(5 名)、日本神経学会専門医(4 名) 他
外来・入院患者数	内科外来患者 16,676 名(1 ヶ月平均)、内科入院患者 5,414 名(1 ヶ月延数)※2022 年度実績
経験できる疾患群	慢性疾患から救急患者まで、幅広く経験ができます。特に、ドクターヘリで静岡県東部の各地より急性心筋梗塞、急性心不全、急性腎不全、大動脈乖離、脳梗塞、脳出血などの患者さんが運ばれてきます。 特に最近では高齢者が増加しており、認知症、パーキンソン病、等の患者さんも

	多数来院されます。
経験できる技術・技能	稀な疾患を含めて、研修手帳にある 13 領域、70 疾患群に症例を経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	静岡県東部は富士を含めると 120 万の人口を有し、伊豆半島、三島、沼津、御殿場、富士からも患者さんが来られます。いわば、静岡県東部の基幹病院となっています。診療連携は東部地域の各病院と緊密にとられています。
認定施設 (内科系)	日本リウマチ学会認定施設 日本リウマチ財団認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本循環器学会研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 植え込み型除細動器・両心室ペースメーカー植え込み認定施設 日本神経学会教育施設

◆順天堂大学医学部附属浦安病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・当院は初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・メンタルストレスに対しての相談窓口として健康管理室があります。 ・研修に必要な図書館と図書館内と研修室はインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 50 名在籍しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（各年 4～5 回程度）しています。 ・臨床病理検討会(CPC)を定期的開催（2021 年度実績 6 回）します。 ・地域参加型のカンファレンスは領域ごとに参加しています。 ・ICLS を年 12 回開催していますので受講することができます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野において、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能です。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 日本内科学会地方会に年回で 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	森本 真司 【内科専攻医へのメッセージ】 順天堂大学は、合計 6 つの附属病院を有し、中でも浦安病院は千葉県東葛南部地域の中心となる急性期基幹病院で、東京ディズニーランドからも近く、地域住民以外に国内外の旅行者も多く受診することが特徴で、救急医療にも力を入れております。また、千葉県内の協力病院と連携し、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。 本プログラムでは、大学病院の内科系診療科が千葉県内の病院と連携し、質の高い内科医を育成するものです。さらに各人の希望に沿って、より専門性に特化した研修内容や高度先進医療だけでなく地域に密着したプライマリーケアを中心とした医療等を経験することもできます。 担当医として、外来診療や、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。 また、多くの専門医指導医が指導することで、単に内科医を養成するばかりでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供する一員となることで、今後の医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目標にします。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 50 名, 日本内科学会総合内科専門医 25 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名, 日本循環器学会循環器専門医 7 名, 日本内分泌学会専門医 1 名, 日本腎臓病学会専門医 4 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名, 日本血液学会血液専門医 5 名, 日本神経学会神経内科専門医 5 名, 日本リウマチ学会専門医 5 名,

	日本感染症学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 2 名， 日本肝臓学会専門医 3 名，日本不整脈神楽学会 3 名ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 22,311 名(1 ヶ月平均) 内科入院患者 9,443 名(延べ 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，疾患群項目表にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療の発展に力添えをするべく、浦安市並びに周辺地域の住民の為に良質の医療を提供する事に重点を置いています。また基幹病院として、医師会との病診連携や病病連携を密にし、地域医療ネットワークの要となるべく努力をしております。
認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会教育施設 日本感染症学会連携研修施設 暫定指導医認定日本神経学会認定教育施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ほか

◆順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	●初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●非常勤医師として労務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ●ハラスメント委員会が院内に整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	●指導医は7名在籍しています(下記)。 ●内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019年度実績 21回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC（臨床・病理検討会）を定期的に開催（2019年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ●地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、内科医会循環器研究会、内科医会呼吸器研究会、消化器病症例検討会、関節リウマチ講演会など；2019 年度実績 10 回以上）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	●カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 8 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています ●専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 5 体、2018 年度 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	●臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ●倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019年度実績3回）しています。 ●治験委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2019年度実績 10回）しています。 ●日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	梁広石 【内科専攻医へのメッセージ】 主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 当院は城東地区の中心的な急性期病院であり、大学附属病院とで内科研修を行い、必要に応じた可塑性のある地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 7 名, 日本内科学会総合内科専門医7名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名, 日本肝臓学会専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医2名, 日本糖尿病学会専門医1名, 日本腎臓病学会専門医4名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名, 日本神経学会神経内科専門医5名,

	日本リウマチ学会専門医 4 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 10,910 名（1 ヶ月平均）入院患者 275 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の内、きわめて稀な疾患と血液疾患以外の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 など

◆順天堂大学医学部附属練馬病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・当院は初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・垣根のない総合医局となっており、病院全体で人材を育てようとする風土のある教育的な雰囲気になり溢れています。 ・順天堂大学で初めて電子カルテを導入した病院であり、ペーパーレス、フィルムレスとなっています。また地域連携システムを導入し、順天堂医院や関連病院の患者情報を電子カルテで共有できます。 ・臨床研修医や若手医師向けの勉強会やカンファレンスが充実しており、医学生・臨床研修医・若手医師・指導医と屋根瓦教育を実践しております。 ・控室、個人ロッカー、PHS等を準備し、貸与いたします。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が41名在籍しています。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、全教職員に受講を義務付けています。（教員は、医療安全講習会：年4回以上、感染対策講習会：年2回以上）またそのための時間的余裕を与えます。 ・毎週月曜日の8:00～内科合同カンファレンスを開催し、各科の連携を図るとともに、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを年6回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・臨床研修医や若手医師向けの勉強会やカンファレンスが多数開催されます。（各科カンファレンス、各種勉強会、医学英語教育など）
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野において、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能です。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 当院では、熱意あふれる指導医のもと、充実した研修を行う事ができます。各科指導医の教育力・熱意には定評があり、どの研修病院にも負ける事はありません。 本プログラムは初期臨床研修修了後に内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。 当院のモットーでもある ①Patient First-何より患者さんに優しく、謙虚に ②目があつたらまず笑顔-笑顔と挨拶、礼儀・接遇・マナー ③Enjoy training-皆さんが明るく楽しく働ける職場を創ります この3つをテーマに掲げ、練馬区及び日本の医療を担える医師を育成することを目的としています。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15名, 日本内科学会総合内科専門医 21名 日本消化器病学会消化器専門医 4名, 日本循環器学会循環器専門医 8名, 日本糖尿病学会専門医 3名,

	日本腎臓病学会専門医 4 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名, 日本血液学会血液専門医 5 名, 日本神経学会神経内科専門医 6 名, 日本リウマチ学会専門医 2 名, 日本肝臓学会専門医 3 名, ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 10,730 名 (1 ヶ月平均) 内科入院患者 4,649 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、疾患群項目表にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療支援病院として、地域医療機関との医療連携に努めている他、急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会認定教育施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ほか

◆江東病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●常勤医師として勤務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署「心の相談室」（メンタルクリニック Dr 担当）があります。 ●ハラスメントに対処する部署が院内に整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●近隣に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	●指導医は 15 名在籍しています（別紙）。 ●内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：呼吸器内科内科部長）、プログラム管理者（各科部長）；専門医研修プログラム準備委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ●基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2021 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的開催（2021 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンス（江東区医師会医学会、江東地域救急搬送検会、江東フォーラム、腸疾患カンファレンス、JIM 等；2021 年度実績 5 回）を定期的開催し、専攻医に受講を積極的に勧め、そのための時間的余裕を与えます。 ●プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	●カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ●70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ●専門研修に必要な剖検を行っています（2018 年度 3 体、2019 年度 2 体、2020 年度 0 体）。この数年は新型コロナウイルスの蔓延のため剖検数は減少していますが、2019 年までは年間 3 体～10 体の剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	●臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ●倫理委員会を設置し、定期的開催（2021 年度実績 6 回）しています。 ●治験コーディネイト室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2021 年度実績 2 回）しています。 ●日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 4 演題）をしています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 江東病院は、東京都東部医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設とともに内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。

	主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名、 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 8,766 名 (1 ヶ月平均) 内科入院患者 265 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	臨床研修病院厚生労働省指定 東京都災害拠点病院 日本内科学会教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育認定施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 東京都脳卒中急性期医療機関 東京都感染症診療医療機関 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アフレル学会施設認定 日本高血圧学会専門医認定施設 など

◆東部地域病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度連携型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が4名在籍している(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(医療倫理、医療安全、感染対策)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPCを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための 時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 東部地域病院は東京都の城東地域の中心的な急性期病院であり、墨東病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 4 名、 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本呼吸器学会専門医 4 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 3,369 名(1 ヶ月平均) 入院患者 287 名(1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 4 領域、10 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

◆日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 東京臨海病院内科専門研修医として勤務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ●ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	●指導医は 14 名在籍しています（下記）。 ●内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（消化器内科部長；総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ●基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的開催（2014 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。現在、インストラクター養成中のため、2017 年度は順天堂大学附属順天堂医院で受講予定です。 ●日本専門医機構による施設実地調査に対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	●カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ●70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ●専門研修に必要な剖検（2020 年度 9 体、2021 年度 11 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	●臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ●倫理委員会を設置し、定期的開催予定です。 ●治験委員会を設置し、開催しています。 ●日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	山田俊夫 【内科専攻医へのメッセージ】 東京臨海病院は、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院であり、日本私立大学振興。共済事業団直営病院という性格から都内区中央部の順天堂大学附属順天堂医院、日本医科大学付属病院、西北部の日本大学板橋病院を連携病院として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。

	主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本老年学会専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,308 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 3,267 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会教育施設 日本消化管学会暫定指導施設 日本肝臓学会教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本静脈栄養学会・NST 稼働認定施設 日本栄養療法推進協議会認定研修施設 など

◆越谷市立病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室、インターネット環境があります。 ●メンタルストレスに対する相談窓口（院外相談員）があります。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，当直室が整備されています。 ●敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	●指導医は 2 名在籍しています。 ●内科専門研修プログラム管理委員会を設置する予定であり，基幹施設，連携施設に設置されている各研修委員会との連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（各年 2 回程度）しています。 ●臨床病理検討会(CPC)を定期的開催（2021 年度実績 3 回）します。 ●地域参加型のカンファレンスは領域ごとに参加しています。 ●JMECC を年 1 回開催する予定であり、専攻医にも希望に応じて参加機会を与える予定です。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	●カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ●70 疾患群のうち血液内科を除く疾患群について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	●臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ●倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ●治験管理室は委託業者に外注しており、委託業者にて治験審査委員会を実施しています。 ●各専門分野における講演会あるいは同地方会にてそれぞれ学会発表をしています。
指導責任者	家永 浩樹 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は埼玉県東部地区の中心的な病院のひとつであり、順天堂医院を基幹施設とする連携病院です。 急性期の受け入れを積極的に行っています。個々の入院患者さんの担当医として診療にあたる他、外来も担当することにより初診から終末期に至るまで一貫した研修を行えます。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 2 名，日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 0 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 0 名， 日本神経学会神経内科専門医 4 名，日本アレルギー学会専門医（内科）0 名， 日本リウマチ学会専門医 0 名，日本感染症学会専門医 0 名， 日本内分泌学会専門医 0 名
外来・入院患者数	内科外来患者 6053 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者 204 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある症例を幅広く経験することができます（血液内科を除く）。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます（血液内科を除く）。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
認定施設	日本内科学会認定医制度教育関連病院

(内科系)	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会准教育関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など
-------	--

◆公益財団法人 がん研究会有明病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●常勤医師として労務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（相談窓口）があります。 ●ハラスメントに対応する委員会が整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●近隣に複数の保育施設があります。また、福利厚生サービス（ベネフィットステーション）に加入しており、通常よりも割安に施設を探すことができます。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	●指導医が 30 名在籍しています。 ●内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（各複数回開催また研修開始時は必須）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、5 の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	照井康仁 【内科専攻医へのメッセージ】 当院はがん専門病院ですが、血液領域、消化器領域、呼吸器領域の悪性腫瘍のみならず、総合内科や感染症領域の研修が可能です。症例数が豊富であり、優秀な指導医も揃っていますので是非当院での研修を選択してください。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 30 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名 ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 33,385 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者 18,183 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域、15 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設

	日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本感染症学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本内科学会認定医制度教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 など
--	---

◆国立がん研究センター中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	• 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 • 国立研究開発法人非常勤医師として勤務環境が保障されています。 • メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 • 監査・コンプライアンス室が国立研究開発法人に整備されています。 • 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室整備されています。 • 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	• 内科学会指導医は 34 名在籍しています（下記）。 • 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 • 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 医療倫理 4 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • CPC を定期的開催（2015 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績地元医師会合同勉強会 1 回、多地点合同メディカル・カンファレンス 18 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	• カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、血液および感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 • 専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 23 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	• 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。 • 倫理委員会を設置し、定期的開催（2015 年度実績 12 回）しています。 • 治験管理室を設置し、定期的治験審査委員会を開催（2015 年度実績 24 回）しています。 • 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	大江裕一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーに加え、在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます。また、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます。国立がん研究センター中央病院での研修を活かし、今後さらに重要性が増すがん診療含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 34 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本肝臓学会専門医 3 名、 日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、

	日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 8 名ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 9,651 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者 665 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、全ての固形癌、血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーなど、幅広いがん診療を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度修練施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本乳癌学会認定施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 など

◆国立がんセンター東病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	●臨床研究中核病院、及びがん診療連携拠点病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●敷地内に宿舎があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	●指導医が 17 名在籍しています。 ●内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科Ⅲ（腫瘍）、消化器、呼吸器、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 国立がん研究センター東病院はがん診療の専門病院であり、連携施設としてがんの診断、治療の基礎から、緩和ケアを含む専門的医療を研修できます。呼吸器、消化器に関しては、内視鏡検査でも全国有数の症例数を有しており、それぞれの疾患の専門家が指導できます。また臨床研究中核病院として、質の高い医療技術をいち早く患者さんに届けるため、最新の医薬品・医療機器の実用化を目指した臨床研究を行っており、臨床研究に携わる全医療者に対して倫理性、科学性に関する教育に力をいれています。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日本循環器学会循環器専門医 0 名、日本内分泌学会専門医 0 名、日本糖尿病学会専門医 0 名、日本腎臓病学会専門医 0 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医（内科）0 名、日本リウマチ学会専門医 0 名、日本感染症学会専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 0 名、日本肝臓学会専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	2018 年 外来患者総数 267,886 名（1 ヶ月平均 22,323 名） 入院患者総数 11,413 名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある、総合内科Ⅲ（腫瘍）、消化器、呼吸器、血液の分野で、腫瘍疾患を中心に経験することができます。

経験できる技術・技能	該当する疾患に対して、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域と連携した医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 など

◆国立国際医療研究センター病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	• 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 • 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 • 国立研究開発法人非常勤医師として勤務環境が保障されています。 • メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部労務管理室長担当）があります。 • 「セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程」が定められており、ハラスメント防止対策委員会も院内に整備されています。 • 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室などが整備されています。 • 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	• 内科学会指導医は 54 名在籍しています（下記）。 • 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療科長）、プログラム管理者（診療医長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 • 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医療教育部を設置します。 • 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 研修施設群合同カンファレンス(内科・総合診療科・救急)を定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 地域参加型のカンファレンス（を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2021 年度開催実績 1 回：受講者 12 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 日本専門医機構による施設実地調査に医療教育部門が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	• カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 • 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 • 専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	• 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 • 倫理委員会を設置し、定期的に開催（年 16 回）しています。 • 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 • 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	放生雅章 【内科専攻医へのメッセージ】 充実した卒後 2 年間の臨床研修を終え、内科専門研修に入る皆さんにとって、医師として成長する上でも専門医を目指す上でも専門研修の 3 年間は臨床研修の 2 年間以上に重要な期間と思われます。さらに多くの症例を経験し、深く学習し、種々の技術を習得するとともに、基幹施設である当院を離れて様々な役割を果たしている地域の医療機関で働くことは生涯の大きな財産となることでしょう。指導医の下ではあっても自分で判断し、行動し、ナショナルセンター、地域の病

	院、海外の病院などで多彩な経験を積んで、立派な専門医となり、日本と世界の医療に貢献できる医師に成長して頂けたらと考えております。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 52 名, 日本内科学会総合内科専門医 28 名 日本消化器病学会専門医 10 名, 日本肝臓学会専門医 4 名, 日本循環器学会専門医 8 名, 日本内分泌学会専門医 2 名, 日本糖尿病学会専門医 3 名, 日本腎臓学会専門医 2 名, 日本呼吸器学会専門医 9 名, 日本血液学会専門医 6 名, 日本神経学会専門医 3 名, 日本アレルギー学会専門医 4 名, 日本リウマチ学会専門医 6 名, 日本感染症学会専門医 9 名, 日本老年医学会専門医 0 名, 日本救急医学会専門医 7 名
外来・入院患者数	内科外来患者 36076 名 (1 ヶ月平均) 内科入院患者 572 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 分野, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会教育認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本輸血学会認定医制度指定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 骨髓移植推進財団非血縁者間骨髓採取・移植認定施設 日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本リハビリテーション医学会認定研修施設

	日本集中治療医学会認定専門医研修施設 日本ペインクリニック学会認定医資格指定研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本栄養療法推進協議会 N S T 稼働認定施設 日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼働施設認定 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設認定 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など
--	---

◆ 国立病院機構相模原病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ● 国立病院機構のシニアレジデントとして勤務環境が保障されている。 ● メンタルストレスに適切に対処する窓口がある。 ● 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用 可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	● 内科指導医が 21 名在籍している。 ● 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催している（2020 年度実績医療倫理に関しては研究センター主導で CITI Japan の受講を促し、倫理委員会についても月一回程度定期的に行っている。医療安全講習、感染対策に関しても年 2 回以上の開催をしている）。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ● 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に 参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を 与える。 ● CPC を定期的開催（2021 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、神経内科、アレルギー、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。また、総合内科に関しては専門各科が協力し応需をしており、内科研修内に経験可能である。感染症については、症例は十分数存在し、また救急部はないが一般二次内科救急を輪番で経験することにより、これらの分野に対する研鑽を積むことが可能である。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしている。
指導責任者	森田有紀子 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、相模原地域の第三番目の規模の二次救急病院であり、地域支援病院として同地域の診療を支える一方で、免疫異常（リウマチ、アレルギー）の我が国の基幹施設として臨床研究センターを 併設した高度専門施設としての役割が期待されています。 それらの事情から、当施設において総合内科専門医を教育、輩出し、またサブスペシャリティの専門領域の研鑽を積むことができる施設として、内科教育の場を提供し、優れた臨床医の育成に努めています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 21 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、 日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本透析学会専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）9 名、 日本リウマチ学会専門医 6 名、ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 5,919 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者 333 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群、200 症例のうち、189 症例を

	経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした 医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本神経学会専門医認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 など

◆日本赤十字社医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●日本赤十字社常勤嘱託医師として勤務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ●ハラスメント委員会が当センター内に整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ●敷地内に託児所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	●指導医は 19 名在籍しています。 ●内科専門研修プログラム管理委員会によって，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ●基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修推進室を設置しています。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2018 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的で開催（年度間実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンス（渋谷区医師会日赤合同カンファレンス，循環器科渋谷区パス大会，循環器科渋谷区公開クルズス，東京循環器病研究会，城南呼吸器疾患研究会，城南気道疾患研究会，城南間質性肺炎研究会，渋谷目黒世田ヶ谷糖尿病カンファレンス，城南消化器検討会，東京肝癌局所治療研究会，都内肝臓臨床検討会，東京神奈川劇症肝炎研究会，消化器医療連携研究会，臨床に役立つ漢方勉強会，など）を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015～2018 年度開催実績各年 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修推進室が対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	●カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ●70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ●専門研修に必要な剖検（実績：2022 年度～2024 年度各々 14,14,11 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】	●臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ●倫理委員会を設置し，定期的で開催（年度間実績 11 回）しています。

4)学術活動の環境	●治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（年度実績 11 回）しています。 ●日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（年度間実績 4 演題）をしています。
指導責任者	小島 敏弥 【内科専攻医へのメッセージ】 日本赤十字社医療センターは日本赤十字社直属の総合病院であり、救急医療、がん治療、周産期を三本柱とする東京中心部の急性期病院です。救命救急センターにおける三次救急、二次救急には研修医の先生に積極的に参加していただいております。当院は癌拠点病院であり、外科治療はもちろん、サイバーナイフ治療、化学治療、そして緩和病棟と一貫した体制がとられ、各科が協力して、とくに内科と外科は密接に関係しながら治療にあたっています。また、当院は都内有数の周産期病院であり、年間 1000 件を超える出産があり、妊婦や婦人科に関連した疾患も内科において経験することが可能です。その他ほとんどすべての診療科を有し、多種多彩な疾患、症例を経験することが可能となっています。スタッフは各分野のエキスパートであり、指導体制も確立しています。症例報告、各種学会発表、臨床研究、論文作成も積極的に行われております。これまで、当院で研修された数多くの諸先輩医師が各分野における日本の医療を支える立場で活躍しています。当院出身の先輩医師は当院の出身であることに誇りを持ち、その経験を生かしつつ最前線で医療に携わっております。また、さらに経験を積んだうえで当院に戻られる先生方も多数おられます。新しい内科専門医制度の採用により、実際の症例件数や実技の修達度も明らかとなり、これまでより一層研修の質を向上させてくれることと思います。またさらには関連施設での一定期間の研修を組み入れることにより、一つの施設にとらわれない広い視野を持った医師の育成にも良い影響があると考えられます。当院のプログラムは、十分な症例経験、実技経験、地域医療や関連施設での研修を通し、これまで以上に日本の医療に貢献できる医師の育成に寄与すべく作成されております。少しでも多くの専攻医のみなさんが当院のプログラムに参加されることを期待しております。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会専門研修指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 36 名 日本消化器病学会消化器病専門医 16 名、日本肝臓学会肝臓専門医 6 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、 日本血液学会血液専門医 10 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名、 日本救急医学会救急科専門医 12 名 など
外来・入院患者数	外来患者 11,335 名（内科 1 ヶ月平均） 入院患者 5,419 名（内科 1 ヶ月平均）
病床	645 床
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら

	幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育施設・准教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設・準教育施設 日本救急医学会救急科専門医指導医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設 など

◆JR 東京総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・JR 東京総合病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。 ・ハラスメント委員会が総務課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 15 名在籍しています（下記）。 ・当施設において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会は、現行設置されている臨床研修委員会の中に盛り込むこととします。 ・内科専門研修プログラム委員会（統括責任者・血液腫瘍内科杉本部長、プログラム管理者・呼吸器内科山田部長）において、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014 年度実績各 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2015 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・地域参加型カンファレンス（JR 東京総合病院・地域連携の会（2014 年度実績 1 回）、渋谷区医師会・JR 東京総合病院合同研修会（2014 年度実績 3 回））、JR・JCHO 呼吸器カンファレンス、新宿肺感染症研究会、新宿呼吸器研究会、新宿呼吸器放射線科カンファレンス、新宿循環器カンファレンス、メトロポリタン循環器内科臨床研修連絡会合同研修医セミナー、渋谷区医師会循環器パス勉強会、城南消化器検討会、城西消化器病研究会、東京山手メディカルセンター・JR 東京総合病院合同消化器症例検討会、JR 東京総合病院消化器セミナーなど）を定期的開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・年 1 回当院において JMECC プログラムを開催し、当院に所属する全専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に事務部総務課が対応しています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のほぼ全疾患群（少なくとも 9 割以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 12 体、2014 年度 9 体）を行っています。
認定基準	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。

【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 6 回）しています。 ・治験管理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 2 演題）をしています。
指導責任者	杉本耕一 【内科専攻医へのメッセージ】 JR 東京総合病院は、新宿区と接する渋谷区代々木において地域医療の中心的な急性期病院であるとともに、東京都区西南部地域の近隣医療圏との連携により幅広い内科専門研修を行っています。学問的な裏付けに基づいた診療を行えるとともに個々の患者さんの必要や環境に応じた適切な医療を提供できる内科専門医の育成を行っています。 主担当医として入院から退院までの診断・治療の流れを経時的に経験するとともに、外来および救急診療にも定期的に参加して、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育てます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名 日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本神経学会専門医 2 名（うち指導医 1 名） 日本呼吸器学会専門医 6 名（うち指導医 2 名） 日本呼吸器内視鏡学会専門医 4 名（うち指導医 3 名） 日本循環器学会専門医 3 名 日本消化器病学会専門医 5 名（うち指導医 1 名） 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名（うち指導医 1 名） 日本肝臓学会専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 3 名（うち指導医 1 名） 日本血液学会専門医 4 名（うち指導医 3 名） 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本超音波医学会専門医 2 名（うち指導医 1 名） 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 9 名 日本救急医学会専門医 1 名（うち指導医 1 名） ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,5171 名（1 日平均）（2015 年度実績） 入院患者 315 名（1 日平均）（2015 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 不整脈専門医研修施設制度認定施設 日本神経学会専門医制度准教育研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本臨床検査医学会認定研修病院 など
-------------------------	---

◆東京都立墨東病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都非常勤医員として勤務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課職員担当)がある。 ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、病児・病後児保育も利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 38 名在籍している。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医);専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理委員会を設置する。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(基本：年 12 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(基本：年 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス(区東部医療圏講演会、江戸川医学会、江東区医師会医学会：基本：年 8 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(基本：年 1 回)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。 ・特別連携施設は東京都島嶼であり、電話やメールでの面談・Web 会議システムなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できる(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2020 年度実績 11 体)を行っている。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2019 年度実績 12 回)している。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2019 年度実績 12 回)してい

	る。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている (2019 年度実績 8 演題)
指導責任者	藤ヶ崎 浩人 【内科専攻医へのメッセージ】 東京都立墨東病院は、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院であり、東京都区東部医療圏・近隣医療圏、東京都島嶼にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 38 名、日本内科学会総合内科専門医 31 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,943 名(1 ヶ月平均)入院患者 4,816 名(1 ヶ月平均) * 感染症科以外
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、島嶼医療なども経験できます。
認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本プライ・マリケア連合学会認定医研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本感染症学会研修施設など

◆ 榊原記念病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所病児保育があります。 ・病院 6 階に専攻医宿舎を完備しており、独身者であれば利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 18 名在籍しています。 ・循環器内科の研修では CCU、心臓カテーテル検査・治療(PCI、末梢血管インターベンション)、心臓電気生理検査・治療(カテーテルアブレーション、植込みデバイス)、心エコー検査、放射線画像診断、心臓リハビリ、成人先天性心疾患を研修できます。また、各種回診、各種カンファレンス(内科カンファレンス、心エコーカンファレンス、手術検討、シネ検討会、不整脈検討会、ブレインハートカンファレンス)、レジデント教育講演、外部講師による定例講演会などが行われます。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行い(2020 年実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス「神明台ハートセミナー」を定期的に行い専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。 ・定期的に行い、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、循環器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を行っています。卒後 3～6 年目の内科専門研修中の医師が筆頭演者の内科系学会での発表数は、2021 年度は 7 件あり、学術活動をより多く経験できるよう指導しています。
指導責任者	七里 守 【内科専攻医へのメッセージ】 榊原記念病院は東京都北多摩南部地域の循環器専門の地域医療支援病院であり、東京医科歯科大学の内科専門研修プログラムの連携施設として循環器内科研修を行い内科専門医の育成を行います。当院は開心術数が年間 1000 件を超えるなど、豊富な症例数を誇っています。指導医は心血管インターベンション、心不全、不整脈(カテーテルアブレーション)、I CD やペースメーカー植込み、心エコー、画像診断(CT/ MR I/ 核医学)、心臓リハビリ、成人先天性心疾患など各領域の専門家がそろっており、循環器診療においてほぼ

	すべての領域をカバーできます。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 18 名, 日本内科学会総合内科専門医 13 名, 日本循環器学会専門医 29 名 ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 4, 101 名 (1 ヶ月平均) 内科入院患者 526 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定施設、日本内科学会認定教育関連特殊施設、日本核医学会認定専門医教育病院、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本集中治療医学会専門医研修施設、日本動脈硬化学会専門医制度教育病院、日本医学放射線学会放射線科専門医特殊修練機関、日本成人先天性心疾患学会成人先天性心疾患専門医総合修練施設、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設(日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会)、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本脈管学会認定研修指定施設、日本小児循環器学会小児循環器専門医修練施設、日本麻酔科学会麻酔科認定病院、日本心臓血管麻酔科学会心臓血管麻酔専門医認定施設、左心耳閉鎖システム実施施設、経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設、潜在的脳梗塞に対する卵円孔閉鎖術実施施設、経皮的動脈管閉鎖術施行実施施設、経皮的左心室中隔欠損閉鎖術実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、補助人工心臓治療関連学会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、下肢静脈瘤に対する血管焼灼術の実施基準による実施施設、腹部ステントグラフト実施施設、胸部ステントグラフト実施施設、浅大腿動脈ステントグラフト実施施設、等

◆埼玉県済生会川口総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤職員（嘱託職員）として労働環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（心理相談室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。 ・希望者には宿舎（マンション）が利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 14 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 7 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度 14 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に行っています。 ・治験管理室を設置し、定期的に行い研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	船崎 俊一 【内科専攻医へのメッセージ】 埼玉県済生会川口総合病院は埼玉県南部医療圏の中心的な急性期病院であり、埼玉県および近隣医療圏にある連携施設で内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門 11 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本内分泌学会内分泌専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名 ほか

外来・入院患者数	内科外来延べ患者数 8,359 名／月（2021 年度） 内科入院患者総数 314 名／月（2021 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、消化器・循環器・代謝・腎臓・救急などにおいては、幅広く症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会にも対応した地域に根ざした医療、病診連携なども経験できます。
認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度審議会認定教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 など

◆聖路加国際病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●聖路加国際病院内科専攻医として勤務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ●ハラスメント委員会が聖路加国際病院に整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●隣接する施設に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	●総合内科専門医が 44 名在籍しています。 ●指導医が 55 名在籍しています。 ●内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で、定常的に専門研修が可能な症例数があり、70 疾患群のほぼ全疾患群の研修が可能です（連携は腎臓内科研修のみです）。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に、年間で計 1 演題以上（年間約 10 演題）の学会発表をしています。
指導責任者	長浜 正彦 【内科専攻医へのメッセージ】 聖路加国際病院腎臓内科の研修の特徴は、臨床腎臓病学の全領域の知識・技術を習得すると同時に、患者を主体としたチーム医療を実践できる能力を養成することにあります。研修ならびに診療の対象は急性腎障害・電解質異常・腎炎・高血圧・慢性腎臓病・透析・移植など腎臓病全領域を網羅し、他科からのコンサルテーションも通して「General nephrologist」への育成を行います。また、腎臓病クリニックならびに透析室ではコメディカルなど多職種とのチーム医療を学び、リーダーとしての医師に求められる資質を発展させることができます。
指導医数 & 各科専門医数	日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本腎臓学会専門医 5 名、日本透析学会専門医 4 名、日本臨床腎移植学会専門医 1 名、小児腎臓学会専門医 2 名ほか

(常勤医)	
外来・入院患者数	内科外来患者 17371 名 (1 ヶ月平均) 内科入院患者 511 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、腎臓内科においては幅広く症例を経験することができます。。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	日本アレルギー学会アレルギー専門医研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設(ICU) 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化器病学会 認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設認定 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本心身医学認定医制度研修診療施設 (心療内科) 日本神経学会専門医制度における教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会認定医制度認定施設、日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度における認定教育施設 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設 日本老年医学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 循環器専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本脳神経血管内治療学会研修施設 日本脳ドック学会 認定施設 日本総合病院精神医学会 一般病院連携精神医学専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会 不整脈専門医研修施設 日本腹膜透析医学会 (CAPD) 教育研修医療機関 日本呼吸療法医学会 専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 非血縁者間造血幹細胞移植 認定診療科 (血液内科・小児科)

	日本心身医学会 研修診療施設（精神腫瘍科） 日本頭痛学会 教育関連施設 日本東洋医学会 研修施設指定 日本病態栄養学会 栄養管理・指導実施施設 日本甲状腺学会 認定専門医施設 など
--	--

◆沖縄県立北部病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・研修医用に研修医宿舎を整備しています（平成 27 年 5 月完成） 後期研修医 月額 1 万 7,000 円程度,1LDK ・沖縄県立病院任期付常勤医師として労務環境が保障されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医 3 名在籍しています。今後指導医は増やしていく予定です。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染症対策講習会を定期的に開催します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 5 演題）を予定しています。
指導責任者	平辻知也 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、沖縄北部地域を医療圏とする 327 床の一般総合病院です。当院の特徴の一つとして、入院患者の 70%が救急外来からであること、1-3 次までのさまざまな急性期内科疾患を経験することができます。また当院には循環器内科、消化器内科、腎臓内科の専門分野があり、全科ローテートすることになりますが、いずれのグループにおいても、一般内科の診療をしながら、なおかつ専門分野の診療を行うというのが当院のスタンスです。急性期疾患、内科全般を診ることの出来る力をつけたい方にとっては、うってつけの病院です。
指導医数 & 各科専門医数（常勤医）	・日本内科学会総合内科専門医 3 名 ・循環器専門医 1 名 ・日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 ・日本救急医学会救急科専門医 2 名 ・日本消化器病学会専門医 2 名
外来・入院患者数	内科外来患者 1,504 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者 219 名（1 ヶ月平均） 実人数
経験できる疾患群	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	・急性期医療だけでなく、超高齢者に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・循環器専門医研修関連施設 ・日本透析医学会教育関連施設 ・救急科専門医指定施設 ・日本救急医学会救急科専門医指定施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本消化器病学会関連施設
認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・研修医用に研修医宿舎を整備しています（平成 27 年 5 月完成） 後期研修医 月額 1 万 7,000 円程度,1LDK ・沖縄県立病院任期付常勤医師として労務環境が保障されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医 3 名在籍しています。今後指導医は増やしていく予定です。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染症対策講習会を定期的に開催します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 5 演題）を予定しています。
指導責任者	平辻知也 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、沖縄北部地域を医療圏とする 327 床の一般総合病院です。当院の特徴の一つとして、入院患者の 70%が救急外来からであること、1-3 次までのさまざまな急性期内科疾患を経験することができます。また当院には循環器内科、消化器内科、腎臓内科の専門分野があり、全科ローテートすることになりますが、いずれのグループにおいても、一般内科の診療をしながら、なおかつ専門分野の診療を行うというのが当院のスタンスです。急性期疾患、内科全般を診ることの出来る力をつけたい方にとっては、うってつけの病院です。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	・日本内科学会総合内科専門医 3 名 ・循環器専門医 1 名 ・日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 ・日本救急医学会救急科専門医 2 名 ・日本消化器病学会専門医 2 名

外来・入院患者数	内科外来患者 1,504 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者 219 名（1 ヶ月平均） 実人数
経験できる疾患群	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・急性期医療だけでなく、超高齢者に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 （内科系）	・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・循環器専門医研修関連施設 ・日本透析医学会教育関連施設 ・救急科専門医指定施設 ・日本救急医学会救急科専門医指定施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本消化器病学会関連施設

◆ 総合病院国保旭中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●法人職員として労務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康相談センター）があります。 ●ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	●指導医が 30 名在籍しています。 ●内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 24 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンス（予定）に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的に開催（2020 年度実績 16 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	●カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ●70 疾患群のうち全疾患群（少なくとも 60 以上の疾患群）について研修できます。 ●専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 62 体、2019 年度実績 71 体、2018 年度実績 71 体、2017 年度実績 89 体、2016 年度実績 80 体、2015 年度実績 89 体、2014 年度実績 80 体、2013 年度 90 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	●臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ●倫理委員会を設置し、定期的に開催（2020 年度実績 6 回）しています。 ●治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2020 年度実績 8 回）しています。 ●日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2020 年度実績 9 演題）をしています。
指導責任者	塩尻 俊明 【内科専攻医へのメッセージ】 ●旭中央病院は、千葉県東部の中心的な基幹病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であり、高度先進医療だけでなく地域に根ざした最前線病院です。

	●高度先進医療や難解な症例を担い、大学病院と同等の機能を有しています。地域がん診療連携拠点病院であり、また緩和ケア病棟を有していることから、高度先進医療を含めたがん患者への全人的医療を地域に提供しています。救命救急センターでは、年間約 40,000 人の患者が来院し、24 時間体制で一次から三次救急まですべての救急患者を受け入れています。内科病床数 300 床で年間約 8000 人を越える内科入院患者を誇ります。臨牀と病理の照合、結びつきを重視しており、内科の年間の剖検数は、2020 年度は 62 体に及び、毎月 CPC が開催されています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 30 名、日本内科学会総合内科専門医 25 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、 日本リウマチ学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 2 名、 日本老年病学会専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 13,642 名（1 ヶ月平均） 入院患者 681 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	J-Osler の疾患群項目表にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	J-Osler にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本神経学会認定准教育施設

	日本糖尿病学会教育関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など
--	--

◆ 亀田総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	• 初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 • 研修に必要な図書やインターネットの環境があります。 • 亀田総合病院専攻医として勤務環境が保障されています。 • メンタルストレスに適切に対処する部署（セルフケアサポートセンター）があります。 • ハラスメント委員会が整備されています。 • 女性専攻医が安心して勤務できるよう更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 • 敷地内に院内保育所、病児保育施設があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	• 指導医が 40 名在籍しています。 • 内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 • 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • CPC を定期的に行い（2019 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019 年度実績 5 演題）をしています。
指導責任者	小原 まみ子 【内科専攻医へのメッセージ】 実力ある骨太の内科医をめざしませんか？ 亀田総合病院は、房総半島南部の千葉県鴨川市にある急性期総合病院で、施設のある安房医療圏だけでなく、隣接する山武長生夷隅医療圏、君津医療圏にまでおよび、広範囲の急性期医療を担っています。救命救急センター三次指定病院・地域がん診療連携拠点病院・災害拠点病院などの機能を担う高次医療機関であると同時に、同地域が医療過疎の高度に進んだ地域であることから、第一線としての医療、地域包括ケア、在宅医療を含む地域に密着した一次医療および二次医療を直接担う病院としての使命も持ち機能しています。このため、一次医療から三次医療までシームレスな研修することができます。
指導医数 &	日本内科学会指導医 40 名、日本内科学会総合内科専門医 24 名、日本内分泌

各科専門医数 (常勤医)	学会専門医 1 名, 日本糖尿病学会専門医 2 名, 日本消化器病学会消化器専門医 9 名, 日本循環器学会循環器専門医 10 名, 日本腎臓病学会専門医 7 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名, 日本血液学会血液専門医 3 名, 日本神経学会神経内科専門医 5 名, 日本リウマチ学会専門医 2 名, ほか
外来・入院患者数	外来患者 60,104 名(1 ヶ月平均),入院患者 1,813 名(1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設(免疫アレルギー科・呼吸器アレルギー科) 日本感染症学会認定研修施設 日本老年医学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本東洋医学会指定研修施設(教育病院) 日本透析医学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定施設 日本内分泌・甲状腺外科学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部ステントグラフト実施施設 日本ステントグラフト実施基準管理委員会 腹部ステントグラフト実施施設

◆公立岩瀬病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●常勤医師として勤務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ●ハラスメントに対処する部署が院内に整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	●指導医が 2 名在籍している。 ●内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(医療倫理、医療安全、感染対策) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ●CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための 時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している。
指導責任者	大谷弘 【内科専攻医へのメッセージ】 公立岩瀬病院は福島県須賀川市に位置する地域の中核病院であり、順天堂大学医学部附属順天堂医院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 2,248 名 (1 ヶ月平均) 内科入院患者 135 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある総合内科・消化器領域の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	臨床研修病院厚生労働省指定 地域包括医療・ケア認定施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本消化器病学会関連施設 日本肝臓学会関連施設 ほか

◆株式会社麻生 飯塚病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境（有線 LAN, Wi-Fi）があります。 ● 飯塚病院専攻医として勤務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。医務室には産業医および保健師が常駐しています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ● 敷地内に 24 時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	● 指導医は 15 名在籍しています（下記）。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2018 年実績 医療倫理 4 回、医療安全 24 回、感染対策 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度開催予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的に開催（2014 年実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 地域参加型のカンファレンス（地域研究会、地域学術講演会、地域カンファレンスなど、2017 年実績 73 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ● 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ● 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 45 以上の疾患群）について研修できます。 ● 専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	● 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ● 倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ● 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。

	● 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります
指導責任者	増本 陽秀 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。
指導医数 (常勤医) 2017 年度実績	日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 40 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,805 名（1 ヶ月平均） 入院患者 1,504 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設

	日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 飯塚・穎田家庭医療プログラム 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設 など
--	--

◆医療法人積仁会 島田総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・臨床研修協力施設です。 ・地域医療研修として年間約 70 名の研修医受け入れ ・病院付属の保育所があります。 ・医師寮があります。 ・研修に必要なインターネット環境があります。(院内及び医師寮) ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (総務部人事課職員担当) があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 4 名在籍しています。(下記) ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催 (2021 度実績 医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹病院等で定期的に開催される CPC 等への参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	内田伸平 【内科専攻医へのメッセージ】 島田総合病院は、千葉県の香取海浜地域、銚子市において 85 年の歴史があり、地域に密着した 2 次医療機関として医療を提供しています。 高齢化率が高い過疎の地域である銚子地域唯一の急性期病院として、サブアキュート、ポストアキュート、在宅医療の機能を有し、幅広く総合的な医療を提供し、地域の急性期から回復期までの医療を担っています。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	・総合内科専門医 1 名 ・循環器専門医 2 名 ・消化器内視鏡専門医 1 名

	・消化器病専門医 1 名
外来・入院患者数	内科外来患者 200 名（1 ヶ月平均）内科入院患者 100 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を 36 経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 （内科系）	・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・腹部ステントグラフト実施施設 ・浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 ・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設 ・日本脈管学会認定研修指定施設

◆筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・総合病院水戸協同病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターを設置し，民間病院の中に国立大学の教育システムを導入して，筑波大学の教員である医師が共同で診療・教育を行っています。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。筑波大学附属図書館と直結したインターネット回線があり，筑波大学で契約している電子ジャーナルを共有しています。 ・ 病院職員（常勤）として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署があります（茨城県厚生連内）。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 17 名在籍しています。 ・ 総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理委員長にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修管理委員会を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2024 年度 4 回、2023 年度 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に行う（2024 年度 2 回、2023 年度 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC（2024 年度 5 回），マクロ CPC（2024 年度 4 回）を定期的に行う，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に行う，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催実績 2 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検（2024 年度 3 体）を行っています。

認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	- 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 - 倫理委員会を設置し、不定期に開催しています。 - 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。筑波大学の教員が訪問して臨床研究相談会を開催しています。 - 日本内科学会講演会あるいは同地方会で積極的に学会発表をしています。
指導責任者	小林 裕幸 【内科専攻医へのメッセージ】 水戸協同病院は筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターを設置し、大学病院でも一般病院でも実現困難な、全く新しい診療と臨床研修体制を実現しました他に例を見ないこの体制は誰もが描く診療と研修の理想像に近く、あの Tierney 先生の一歩弟子である UCSF の Dhaliwal 先生をして「嫉妬を感じる」と言わしめた体制です。その体制の中核は、病院全体が水戸協同病院でありかつ教育センターであること、内科、救急、集中治療の間に垣根がない総合診療体制で、他のすべての科を含んだ病院全体が一体化していること、毎朝、毎週、全内科はもちろん病理学部門を含む主要科がそろって症例検討すること、教授から研修医までみんなの目線が等しくいつでもどこでも、普通に気軽に相談、討論できること、そして、「すべては研修医のために」を方針として常に体制を見直していることです。さあ、皆さん、一緒に学び、そして地域医療に貢献しようではありませんか。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 17 名, 日本内科学会総合内科専門医 16 名, 日本消化器病学会消化器専門医 4 名, 日本循環器学会循環器専門医 3 名, 日本糖尿病学会専門医 4 名, 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名, 日本神経学会神経内科専門医 1 名, ほか
外来・入院患者数	外来患者 606 名 (1 日平均) 入院患者 227.7 名 (1 日平均) 2024.4～2025.3
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、「研修手帳（疾患群項目表）」にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	「技術・技能評価手帳」にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会循環器研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会（NST 稼動施設認定） 日本頭痛学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本人間ドック学会会員施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本緩和医療学会緩和ケアチーム登録施設 救急科専門医指定施設、DMAT 指定病院 茨城県広域スポーツセンタースポーツ医科学推進事業協力医療機関認定施設 など
-----------------	---

特別連携施設

◆順天堂越谷病院、◆新島村国民健康保険診療所、◆中伊豆温泉病院